



「ココロン・カフェ」に対しても
たくさんのご意見をいただきました!! (抜粋)

ココロン・カフェの
子どもバージョンが
あるといいと思う。

色々な意見を聞いて良かった。
でも、まだまだ多くの話合いが
必要だと感じた。

障害のない人も一人
でも多く参加して
ほしい。

このような機会を
ふやして欲しい。

すぐには変わることはない
が、続けていく必要のある
大事な時間だと思う。

もっと多くの人に参加
してもらいたい。その
くらい良い取り組みだ
と思う。

まとめ

- ・ 障害者自身から必要な配慮を意思表示することが大切。しかし、自分で意思表示することが難しい人もいるため、障害特性に合わせた支援が必要である。また、手話通訳等の意思疎通支援の充実を求める意見があった。
- ・ 事業者が障害者へのサービスの提供に関して消極的な対応を取ってしまう背景には、障害特性を知らないことから生じる不安がある。その不安を解消するための具体的な説明や仕組みづくりが必要である。
- ・ 障害者と事業者等との間で、中立的な立場から調整を行うコーディネーターが必要であるという意見が多く出された。
- ・ 相互理解が大切であるという意見が多かった。時間はかかるかもしれないが、障害者、事業者、市民それぞれが認め合う社会の実現に向けて努力していくことが必要である。

発行：仙台市健康福祉局障害企画課 〒980-8671 仙台市青葉区国分町3丁目7-1
電話：022-214-8163 ファクス：022-223-3573 メールアドレス：fuk005330@city.sendai.jp

ココロン・カフェレポート vol.2

～第3回と第4回を振り返って～

ココロン・カフェとは

仙台市では、「共生する社会」を実現するために、障害を理由とする差別の解消を推進するための条例の制定について、検討しています。条例の検討にあたっては、障害のある当事者の方の意見を伺うとともに、市民の関心を高め、幅広く理解を得ながら進めていくことが大切だと考えています。

そこで、障害の有無にかかわらず広く市民が参加し、障害のある人とない人が知り合い、お互いに理解を深め、意見交換ができる場としてワークショップ「障害のある人もない人も暮らしやすいまちづくりを考えるカフェ（愛称：ココロン・カフェ）」を開催しています。このレポートでは第3回と第4回のカフェの様子やいただいたご意見などをご紹介します。

開催概要

- 第3回：平成27年1月27日（火）10時～
仙台市福祉プラザ1階プラザホール
第4回：平成27年3月1日（日）14時～
仙台市役所本庁舎8階ホール

第3回・第4回のココロン・カフェでは、市民の皆さんから募集した差別事例の中から、それぞれ2つの事例について取り上げ、「差別と感ずるかどうか」や「どうしたら改善できるか」などの意見交換を行いました。



ココロン・カフェの様子

ピックアップした事例

第3回

- 「おいしいパフェ屋さんがあるが、エレベーターがないので、車いすの方はいけない」
- 「盲導犬をつれていって店に入ると、出ていってくれというのがまだある」

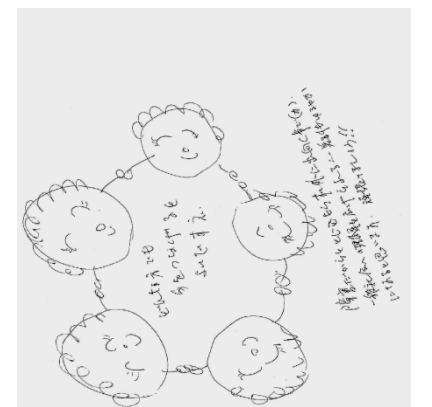
第4回

- 「視覚障害の方がアパートを探していた時、不動産屋と大家さんに火事を起こされるからダメだと断られた」
- 「仕事場の会議に要約筆記が必要なのに、用意してくれない。耳が聞こえないのにあまり筆談をしてくれない」

ワークショップの様子

第3回は46名、第4回は74名が参加し、障害当事者や支援者の方を始め、企業の方、地域で活動されている方など、様々な立場の人が集まり、それぞれの視点から差別事例の要因や解決策について意見交換をおこないました。当事者側の意見だけでなく事業者側に立った意見もあり、双方が歩み寄り話し合いによって相互理解を深めていくことが重要だという意見が多く出されました。

参加者からは「互いの理解が深まりとてもよいワークショップであった」、「さまざまな角度からの意見があり視野が広がった」などの声をいただき、ココロン・カフェが障害のあるなしに関わらず様々な立場の人が出会い、互いを理解するきっかけとなる場として重要な役割を果たしていることが伺えました。



ワークショップメモ一例

事例1

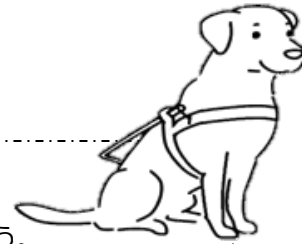
「おいしいパフェ屋さんがあるが、エレベーターがないので、車いすの方は行けない」



- ・従業員が忙しいから対応しないというのは、差別だと思う。
- ・店側が気づかない場合もある。当事者から配慮してもらいたいことを伝えることが必要。
- ・店員にパフェを1階まで持ってきてもらい、車の中などで食べられるようにするといいいのでは。
- ・店側としては、費用の問題もあるのでエレベーター設置という対応は難しい。
- ・店員やまわりの人に声をかけ、おんぶしてもらうなど協力を得る。

事例2

「盲導犬をつれていって店に入ると、出ていってこれというのがまだある」



- ・盲導犬に関する正しい知識がないことにより誤解や偏見が生じているのではないか。
- ・入店の際、障害者から盲導犬に関する説明を行うことで理解を得られやすくなると思う。
- ・身体障害者補助犬法や盲導犬について、市民や事業者に分かりやすく周知を行い、正しい理解を促進することが必要。盲導犬ステッカーの一層の普及など。
- ・店側が身体障害者補助犬法により盲導犬同伴者の入店拒否ができないことを知らないのではないか。
- ・犬嫌いや犬アレルギーの人もあるため、入店拒否するのではないか。

事例3

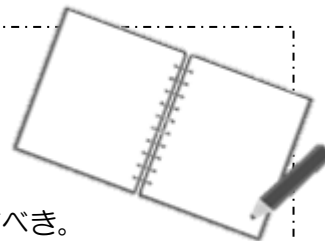
「視覚障害の方がアパートを探していた時、不動産屋と大家さんに火事を起こされるからダメだと断られた」



- ・視覚障害のことがわからないため、誤解や偏見につながっているのではないか。
- ・不動産屋や大家に、視覚障害や視覚障害者に関する正しい理解の促進が必要。
- ・視覚障害者から不動産屋等に、障害状況などを丁寧に説明するといいいのでは。
- ・本人の生活状況などについて説明できるコーディネーターや相談員がいるといい。
- ・不動産屋や大家の不安を解消することが大事だと思う。そのための具体的な仕組みづくりが必要。

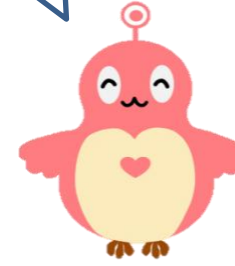
事例4

「仕事場の会議に要約筆記が必要なのに、用意をしてくれない。耳が聞こえないのにあまり筆談をしてくれない」



- ・障害者と会社側の間にクッションとして入ってくれる人がいるといい。
- ・必要な配慮が会社側に伝わっていないのではないか。
- ・職場内で必要な配慮について言い出しづらい環境だったのかもしれない。
- ・採用時に聴覚障害のことを把握していたのであれば、会社側は必要な配慮を提供すべき。
- ・聴覚障害者から必要な配慮についてきちんと意思表示することも必要では。
- ・聞こえない状況や必要な配慮について、会社側と話し合いをし、その上で、どこまで会社が対応できるか確認するといいいと思う。

事例検討を通して わかった 差別解消のポイント



当事者からの発信・意思の表明が大切

- ・障害者自身から積極的に情報を発信していくことが大事。
- ・障害者が配慮して欲しいことなどを言い出しづらい環境になっていないだろうか。
- ・積極的に言う人はいいが、自ら発信出来ない人は苦しいだろう。
- ・障害者の思いを代弁できる人が必要。
- ・意思疎通支援等の制度の充実も必要。
- ・支援や助けが必要なときに当事者が遠慮しないで言える社会になるといい。

対立ではなく、お互いの理解を 深めることが大切

- ・キーワードは相互理解。お互い動いて話し合って理解していくことが大切。
- ・互いに理解し、歩み寄るための具体的な工夫や事例の共有が必要。
- ・言葉、態度、相手の言葉で考えること
- ・不安や無理解を聞いて解消する取組が大切。
- ・わかってくれない！で終わらずに、ねばり強い説明を。
- ・障害者の差別の多くは、コミュニケーション不足から生じていると思う。

相談・調整できる存在が必要

- ・困った時に仲介に入ってくれる第三者が必要。
- ・なにかあったときは支援してくれる人がいると安心。
- ・中立の立場に立てるコーディネーターが調整するといいい。
- ・障害者と健常者、両方のことがわかる第三者が入るといいのでは。

障害を知らないことで誤解や 偏見が生まれる

- ・障害特性等を知らないことによる無理解、誤解、偏見、不安が差別につながっているのではないか。
- ・実際に当事者と接してみないとわからない。
- ・障害者と交流する場所や機会が不足しているように思う。
- ・あらゆる機会を捉え障害特性等の啓発を進めていくことが大切。

その他

- ・地域での偏見等をなくすことが必要。
- ・「何が差別にあたるのか」物差しが必要。
- ・罰則規定も必要かもしれない。
- ・サポートが充実しすぎると、障害児者と日常的に関わる機会が少なくなってしまうかも。